

映像放送科

卒業認定の方針（ディプロマ・ポリシー：DP）

■ 育成人材像

- ① 技術進歩の早い映像・放送コンテンツ業界において、クリエイティブセンスとテクニカルスキルを身に付け、カメラマン、エディター、ミキサーなど、映像技術者として番組制作に携わり、優良な番組を仕上げることができる。
- ② 放送、Web 動画、映画など、多様なメディアを対象としたディレクションスキルを身に付け、映像ディレクターとして時代に即した映像コンテンツを制作することができる。
- ③ コンピュータによる映像表現に関する知識とノンリニア編集ソフトの操作技能を身に付け、ディレクターの意図に沿った映像編集ができる。

■ 身に付ける能力

- ① 映像、音響、照明、CG の授業を通して、イメージを具現化する基礎技術を学び、コンテンツ制作を行うことができる。
- ② カメラ、照明機器、音響機器、送信設備等の放送機器に関する知識と操作技術を身に付け、放送業界で円滑に業務を遂行できる。
- ③ 音響制作科との合同授業（ステージ制作）により、制作・技術スタッフや出演者との関りを学び、チームワークの重要性を理解し、プロジェクトを円滑に進めるためのディレクションスキルを身に付け、映像コンテンツの制作ができるようになる。
- ④ ディレクションスキルとテクニカルスキルをインターンシップ（現場実習・課外実習）で実践し、実務に応用できる。
- ⑤ ニュース報道など中継現場から放送する場合必要となる、第1級陸上特殊無線技士の資格取得に必要な、電気に関する知識、電波の基礎知識、電波法、無線設備、無線従事者の仕事等の知識を身に付ける。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー：CP）

■ 教育課程編成の方針

- ① 豊かな教養と社会常識を身に付けるために、「就職対策」を各年次に配置する。
- ② 1年次は、映像放送分野における基礎的知識、映像編集・画像編集・CG制作アプリケーションの基本的操作能力、スイッチャーやカメラなどのスタジオ機材の操作能力を身に付けるための専門科目を配置する。
- ③ 2年次は、1年次に身に付けたアプリケーション、機材の操作法の応用力を高め、映像技術分野で即戦力として活躍できる実践力を身に付けるための専門科目を配置する。
- ④ 2年次は、番組制作や公開にかかわるコンプライアンス、台本構成と文章表現など、映像制作分野で即戦力として活躍できる実践力を身に付けるための専門科目を配置する。
- ⑤ 2年次通年で企業と連携した実習科目を配置する。

■ 授業実施の方針

- ① キャリア教育科目である「就職対策」はオンラインコンテンツを利用した一般常識の学修、履歴書・エントリーシートの記述指導、面接訓練等の実践トレーニングの他、業界企業研究を行う。
- ② 映像放送分野における知識習得を目的とした科目は講義形式で行うことを基本とし、知識の定着のための演習はグループワーク形式で行う。

- ③ 映像編集・画像編集アプリケーション、スタジオ機材の操作技能を身に付けるための専門科目は実習形式で行う。各科目年間3作品程度の課題を作成し、映像放送業界で即戦力として活躍できる実践力を身に付ける。
- ④ 実践力を身に付けるために実施する企業と連携した授業は、スタジオ番組制作実習としてトーク番組、ニュース番組、情報番組などを制作し、スタジオにおける番組制作に必要な技術や知識を身に付ける。

■ 学修成果評価の方針

- ① 講義科目は、定期試験、小テスト、レポート、授業に取り組む姿勢をもとに総合的に評価する。各科目の評価方法はシラバスに記載する。
- ② 実習科目は、課題の提出状況、作品の完成度、授業に取り組む姿勢をもとに総合的に評価する。各科目の評価方法はシラバスに記載する。